

国内株式および国内債券市場 2019年1月～3月

運用先市場の状況

作成基準日 2019年3月29日

○国内市場

・株式市場

【コメント】

国内株式は上昇しました。

1月は、米アップルの業績下方修正や、円高・米ドル安推移が嫌気され、大幅に下落して始まりましたが、その後は堅調な米国雇用統計や、FRB(米連邦準備制度理事会)議長が利上げや保有資産縮小に対して慎重な姿勢を示したことなどから、堅調に推移しました。

2月は、欧米景気に対する懸念や低調な国内企業決算などが上値を抑える材料となったものの、米政府機関の閉鎖回避に向けた動きや、トランプ米大統領が対中間税の引上げ延期を表明したことなどから、株価は続伸しました。

3月は、FRBが年内利上げを見送る方針を示したことは市場に安心感を与えたものの、国内および海外の経済指標が低調だったことが嫌気され、一進一退の展開となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

【コメント】

長期金利(10年国債利回り)は低下しました。

1月は、株安、円高が進行し、長期金利は急低下して始まりしました。FRB議長が金融政策に対し柔軟な姿勢を示すと、株高のなか海外金利に連れて国内金利も上昇しましたが、米国の一部政府機関閉鎖の長期化や米中貿易摩擦への警戒感、FRBが利上げや保有資産縮小に対して慎重な姿勢を示したことなどから、長期金利は低下しました。

2月は、景気減速への警戒や低金利環境の長期化懸念を背景に、長期金利はマイナス圏へ低下しましたが、月末にかけて、米中貿易摩擦や英国のEU(欧州連合)離脱問題への警戒感が後退するなか、金利は低下幅を縮小して引けました。

3月は、日銀の国債買入れ減額への警戒感から、長期金利は0%近辺へ上昇しました。その後は、景気減速懸念や、欧米の中央銀行が金融政策に緩和的な姿勢を示したことから、海外金利が低下基調となり、国内金利も一時-0.10%をつけるなど、金利低下基調となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

まとめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2019年1月～3月

運用先市場の状況

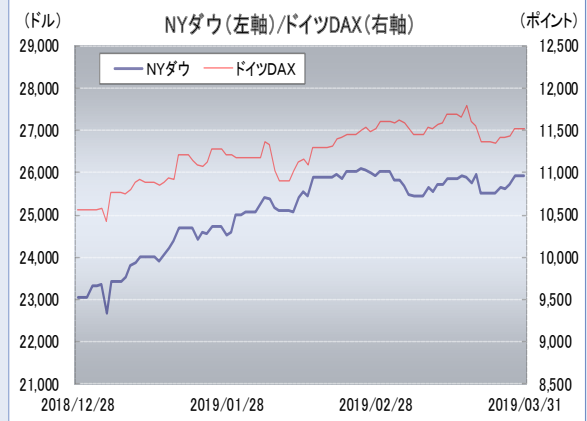
作成基準日 2019年3月29日

○外国市場

・株式市場

【コメント】

米国株式市場は上昇しました。
1月は、景気指標の下振れや、アップルの業績予想の引き下げが嫌気され、一時下落しましたが、米中通商協議の進展期待や、FRB議長が政策金利の引上げに対して慎重な姿勢を示したことから、反発に転じました。2月は、世界経済の減速懸念から、一時調整しましたが、米政府機関の閉鎖回避や、米中貿易協議の進展期待から続伸しました。3月は、米国国債の長短金利が逆転するなど、根強い景気減速懸念などから上値の重い展開となりましたが、FOMCIにおいて2019年中の追加利上げを行わない方針が示されたことなどから上昇しました。
欧州株式市場は上昇しました。
概ね米国と同様の動きでしたが、ECB(欧州中央銀行)などによる欧州経済成長率見通しの引き下げや、英国のEU離脱問題の不透明感などが上値を抑えました。

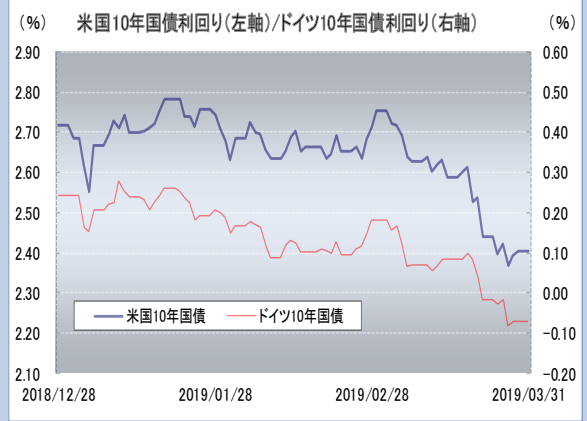


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

【コメント】

米国長期金利(10年国債利回り)は低下しました。
1月は、月初に株式市場の下落などを背景に大幅に低下しました。その後は株価の上昇、米中通商協議の進展期待から金利は上昇する局面もありましたが、FOMC声明文で利上げ停止が示されたことなどから、金利は再度低下しました。2月は、FRBのハト派(景気を重視する立場)的な姿勢と抑制されたインフレ環境を背景に、小幅なレンジで推移しました。3月は、FOMCにおいて今後の政策金利見通しが大幅に引き下げられるなど、事前予想を上回るハト派的な内容となったことにより、長期金利は低下しました。
ドイツ長期金利(10年国債利回り)は低下しました。
概ね米国と同様の動きでしたが、ECBなどによる欧州経済成長率見通しの引き下げや、英国のEU離脱問題の不透明感なども金利低下要因となりました。

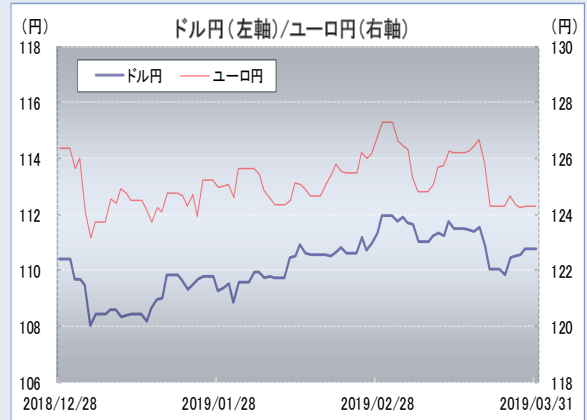


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

○為替市場

【コメント】

米ドル/円は円安、ユーロ/円は円高となりました。
1月は月初には、株式相場の下落などからリスク回避の動きが強まったことで、円は主要通貨の大半に対して大きく上昇しましたが、その後は揉み合い推移となりました。
2月は、リスク選好姿勢の回復により、円は対主要通貨で弱含みしました。
3月は、グローバル経済に対する警戒感が強まる局面では、円が強含みで推移しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。